

科目区分	総合文芸学科専門教育科目					
科目名	英語で読む文芸A					
担当教員	白川 計子					
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2~4	単位数 2.0
授業のテーマ	英詩を楽しむ					
授業の概要	20世紀の英国の詩を味読する。 中心として取り上げるのは、20世紀前半を代表する詩人T. S. エリオット、20世紀後半を代表する詩人フィリップ・ラーキンである。恋愛詩や社会詩、普遍的な詩から個人的な詩まで、様々な詩の内容や形式を学ぶことになる。					
到達目標	詩をとおして我々の生まれた時代をふりかえり、今や我々の一部である西洋を個々人の意識の中で再確認する。現代の西洋の詩について理解し、その文芸批評を書く。					
授業計画	第1回：写実と心象 第2回：俳句とイマジズム 第3回：イマジズム詩 第4回：T. S. エリオット紹介 第5回：映画『詩人の恋』鑑賞 第6回：エリオットの初期イマジズム詩 第7回：エリオットの「荒地」 第8回：フィリップ・ラーキン紹介 第9回：ラーキン詩の多様性 第10回：詩の形式と内容 第11回：ラーキンの恋愛詩 第12回：恋愛詩の変容 第13回：告白詩から観察詩へ 第14回：ラーキンの社会詩 第15回：レポート指導					
授業外における学習（準備学習の内容）	復習レポート					
授業方法	講義					
評価基準と評価方法	出席を含む平常点と小レポート60% 最終レポート40%					
教科書	プリントを配布します。					
参考書	随時紹介する。					

科目区分	総合文芸学科専門教育科目					
科目名	英語で読む文芸B					
担当教員	白川 計子					
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2~4	単位数
授業のテーマ	英国詩を楽しむ					
授業の概要	20世紀後半の英國を代表する詩人フィリップ・ラーキン、そして、ポスト・モダニズムの感受性をもつ現在活躍中の詩人、ポール・マルドゥーンの詩を読み現代の英語文芸に親しむ。					
到達目標	詩をとおして我々の生まれた時代をふりかえり、今や我々の一部である西洋を個々人の意識の中で再確認する。学んだことを深く考え、文芸批評文を書く。					
授業計画	第1回：フィリップ・ラーキンの生涯と詩作 第2回：The Less Deceived から 第3回：The Whitsun Weddingsから 第4回：High Windowsから 第5回：青春と老いの歌 第6回：老いと死の歌 第7回：ラーキン詩のヒューマニズム 第8回：英国現代詩の流れ 第9回：ラーキンとその時代 第10回：モダニズムからポストモダニズムへ 第11回：ポール・マルドゥーン紹介 第12回：マルドゥーン詩の特徴 第13回：ポストモダニズム詩として 第14回：マルドゥーンの俳句紹介 第15回：レポート指導					
授業外における学習（準備学習の内容）	復習レポート					
授業方法	講義					
評価基準と評価方法	出席を含む平常点と小レポート 60% 最終レポート 40%					
教科書	プリントを配布します。					
参考書	隨時紹介する。					

参考書	石川日出志『農耕社会の成立』岩波新書 ISBN-978400431271 佐原真「日本人の誕生」小学館ライブラリ1992年 寺沢薰『王権誕生』講談社学術文庫ISBN-9784062919029 藤本強『考古学でつくる日本史』同成社ISBN-9784886214218 佐原真「考古学への案内」岩波書店 2005年 菊池徹夫『考古学の教室』平凡社ISBN-9784582853872 小林謙一『縄文はいつから?』新泉社ISBN-9784787711014 阿部芳郎『考古学の挑戦』岩波ジュニア新書ISBN-9784005006571 佐々木憲一『はじめて学ぶ考古学』有斐閣ISBN-9784641124349
-----	--

教科書	なし
参考書	小松洋支、中村卓司 監修 『新コピーライター入門』 (株)電通 藤沢武夫 『広告の学び方つくり方』 昭和堂 岸 勇希 『コミュニケーションデザイン—コミュニケーションをデザインする』 (株)電通

参考書	<p>授業中に紹介 (以下、浦部依子先生の授業の参考書)</p> <p>①吉田富夫『中国現代文学史 一九一五 - 四九』(朋友書店、1997) ②藤井省三、大木康『新しい中国文学史』(ミネルヴァ書房、1997) * 第II部「近現代の中国文学」(p. 102~) ③魯迅、竹内好訳『阿Q正伝・狂人日記 他十二篇(呐喊)』(岩波書店、1981) ④山田敬三『魯迅の世界』(大修館書店、1977) ⑤丸山昇監修『中国現代文学珠玉選 小説〈1〉~〈3〉』(二玄社、2000~2001) ⑥『中国現代文学選集』20巻(平凡社、1962~1963) ⑦丸山昇、伊藤虎丸、新村徹編『中国現代文学事典』(東京堂出版、1985、1996) ⑧中国文学研究会編『中国新文学事典』(河出文庫、1955)</p>
-----	---

評価基準と評価方法	<p>る。引用には出典を書く。 ③ 提出者間で全く酷似したレポートは、いずれをも減点することがある。 担当者：木下昌巳 レポート70%、平常点30%。</p>
教科書	<p>講義開始日に配布するコースパックを使用する。</p>
参考書	<p>担当者：浦部 ・中国文学全般に関する参考文献（抜粋）： 倉石武四郎『中国文学講話』東京：岩波書店1974 ISBN-10: 4469230154 吉川幸次郎『中国文学入門』東京：弘文堂1976 ISBN-10: 406158023X 岩城秀夫『中国文学概論』京都：朋友書店1996 ISBN-10: 4892810479 興膳宏編『中国文学を学ぶ人のために』京都：世界思想社1991 ISBN-10: 479070386X 大木康『中国明清時代の文学』東京：放送大学教育振興会2001 ISBN-10: 4595670303 章培恒・駱玉明主編『中国文学史 新著』（全三冊）上海：復旦大学出版社2007 ISBN: 9787309054620（中国語） 浦部依子「花の中国文学漫歩」（月刊『東方』連載）東京：東方書店1998年3月～99年2月（205号～216号）ISSN: 0910-8904 ・戯曲の日本語訳書（抜粋）： 王昭君（おうしょうくん） 1「還魂記・漢宮秋」宮原民平訳 『国訳漢文大成』文学部第10巻//b 東京：國民文庫刊行會, 1921. 7 西廂記（せいしょうき） 1「西廂記・琵琶記」宮原民平訳註 『国訳漢文大成』文学部第9巻//a 東京：國民文庫刊行會, 1923 2『西廂記』王実甫著、鹽谷節山訳 東京：昌平堂1948 3『新訳西廂記』岸春風樓訳 東京：文教社 1916（大正5年） 4『西廂記』岡島獻太郎訳 東京：團々社書店（発売）1894 琵琶記（びわき） 1「西廂記・琵琶記」宮原民平訳註 『国訳漢文大成』文学部第9巻//a 東京：國民文庫刊行會, 1923 2「國譯琵琶記」鹽谷溫訳註 『国訳漢文大成』文学部第35冊（第9帙の3）東京：國民文庫刊行會, 1923 杜麗娘「牡丹亭（ぼたんてい）」 1「還魂記・漢宮秋」宮原民平訳 『国訳漢文大成』文学部第10巻//b 東京：國民文庫刊行會, 1921. 7 2「還魂記」岩城秀夫訳『戯曲集 下』中国古典文学大系53 東京：平凡社 1971 王美娘 「占花魁（おいらんを占む）」 1「壳油郎独占花魁」千田九一・駒田信二訳『今古奇観 上』中国古典文学大系37 東京：平凡社1970 担当者：木下昌巳 ソポクレス著 藤澤令夫訳 『オイディップス王』 （岩波文庫） プラトン著 森進一訳『饗宴』（新潮文庫） （授業で必要な箇所は授業中にプリントで配布するので、各自で購入する必要はありません。） その他、参考資料などについては、授業で指示します。</p>

科目区分	総合文芸学科専門教育科目					
科目名	卒業研究／Graduation Thesis					
担当教員	柿沼 伸明					
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜4	配当学年	4	単位数
授業のテーマ	卒業論文の指導					
授業の概要	卒業論文執筆のための基本作業と細かな文章作法を教え、各人が自分の関心テーマに沿って充実した卒業論文を完成させることを助ける。					
到達目標	卒業論文の完成					
授業計画	第1回：卒業論文提出までの日程・課題の説明する。 第2～6回：卒業論文のテーマの見つけ方、参考文献の探し方、卒業論文の書き方、日本語の文章作法等を指導する。 第7～15回：受講者各人が卒論原案について口頭発表（1人2回）。お互いに討議し、問題点を指摘し合う。（第14回目に、卒論の章構成・各章内容の箇条書き・参考文献リストを提出すること） 第16～20回：論理展開の方法、引用と脚注の仕方など卒論の細則について解説する。受講者は、執筆中の章の内容について詳しく口頭発表せねばならない。 （10月中旬までに、少なくとも完成させた卒論の1章を指導教官に提出すること） 21回目以降：提出された文章を添削し、論理構成や日本語表現などについて個別に指導する。 （書き終えた章はどんどん指導教官のもとに持ってくること。1人3～4回程度、卒論テクストを校閲する。最終的にOKが出されたとき初めて、卒論制作が終了する） 1月中旬：卒論を教務課に提出。 （OKの出されていない卒論制作者は、引き続き作業を継続すること。OKの出た卒論も、もう一度精読する）					
授業外における学習（準備学習の内容）	卒論のテーマが定まったならば、関連書籍・論文をどんどん読んでいくこと。					
授業方法	初めは講義、原稿をもってきた段階から文章添削と個別指導。					
評価基準と評価方法	出席20%、卒業論文の内容80%で評価。					
教科書						
参考書						

参考書	
-----	--

参考書	授業時に指示する。
-----	-----------

科目区分	総合文芸学科専門教育科目
科目名	比較文化IB
担当教員	宗像 衣子
学期	後期／2nd semester
	曜日・時限
	火曜2
	配当学年
	2
	単位数
	2.0
授業のテーマ	文芸と文化
授業の概要	<p>文学・芸術等を広い視野から深く吟味する能力を養うために、文芸を生み出す「文化」、また文芸によって築かれてゆく「文化」について考察する必要がある。日本文化を比較的に捉え直すことをも目指して、西洋の諸文化との比較検討を行う。</p> <p>ここでは、日本と他の国（フランスを中心にヨーロッパ・アメリカ諸国）とのつながりを見る比較研究、そして諸ジャンル（文学・美術・音楽・演劇・社会・思想・歴史等）の間の関連を探る比較研究を、現代文化へと開かれる「19世紀文芸・文化、アール・ヌーヴォー、ジャポニスム」を中心にして、試みたい。</p> <p>このようにして、様々な作品や文化を視聴覚教材も加えて見たり聴いたり読んだりしながら、私たちにとって身近な親しい事柄の源に、思いもかけず出会えます。</p>
到達目標	私たちの日常の生活や関心がどのような幅広い奥深い歴史をもっているかを発見しながら、多様な文化・文学・芸術に接する楽しみ・よろこびを豊かに味わうことができます。
授業計画	<p>以下、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。</p> <p>1 研究ガイド 2 各論・個別の芸術家や作品 3 欧米と日本1（フランス） 4 欧米と日本2（ベルギー） 5 欧米と日本3（ドイツ） 6 欧米と日本4（オーストリア） 7 欧米と日本5（イギリス） 8 欧米と日本6（アメリカ） 9 欧米と日本7（スペイン） 10 欧米と日本8（イタリア） 11 欧米と日本9（日本） 12 世紀末文化・芸術の射程 13 比較文化の成果と意義 14 研究の展望 15 総合</p>
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%
教科書	授業中に関連資料や参考書を紹介・配付する。
参考書	ジャポニスム 大島清次著（講談社学術文庫）

科目区分	総合文芸学科専門教育科目					
科目名	比較文化IIA					
担当教員	柿沼 伸明					
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	映画に見る現代社会					
授業の概要	授業内容：映画を鑑賞しながら、世界各国の社会や文化の様相を理解することを目的とします。グローバル化した複雑な現代社会を理解するためには、世界の地域地域の個別的な歴史的・社会的な事情を把握しておく必要があります。他方、優れた映画は、それぞれの社会を映す鏡のような存在です。映画のなかで描き出された社会の固有のありさまを、専門書の読書によって理解し、現在、自分の置かれている状況と比較しながら考えてみてください。鑑賞する映画作品は、日本も含め、できる限り世界各国を網羅する予定です。					
到達目標	映像を通しての現代世界の理解					
授業計画	1回 授業概要と成績評価基準の説明 2回 『北京バイオリン』の背景（現代中国の巨大な社会格差）解説 3回 『北京バイオリン』鑑賞 4回 『北京バイオリン』鑑賞後の解説、感想文記入 5回 『グッバイ、レーニン』の背景（1989年の東欧革命と1990年のドイツ統一）解説 6回 『グッバイ、レーニン』鑑賞後の解説、感想文記入 7回 『女はみんな生きている』の背景（現代フランスの移民問題、あるいはマグレブ差別）解説 8回 『女はみんな生きている』鑑賞後の解説、感想文記入 9回 『逆噴射家族』の背景（1980年代の日本の家族形態の変化、または家族の絆の危機）解説 10回 『逆噴射家族』鑑賞後の解説、感想文記入 11回 『ウォール街』の背景（1980年代のアメリカの金融資本主義醸成と暴金主義）解説 12回 『ウォール街』鑑賞 13回 『ウォール街』鑑賞後の解説、感想文記入 14回 『不適切な真実』の背景（現代世界を脅かす地球温暖化）解説 15回 『不適切な真実』鑑賞後の解説、感想文記入					
授業外における学習（準備学習の内容）	興味をもった映画で描かれている社会・歴史に関する専門書2冊以上を読むこと。					
授業方法	映画に映し出された現実の歴史的・社会的背景を理解してもらうための講義。					
評価基準と評価方法	映画鑑賞後の感想文20%、レポート（前期後期1回ずつ）80%。					
教科書	毎回、解説プリントを配布します。					
参考書						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目																																			
科目名	比較文化III A																																			
担当教員	植 朗子																																			
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数 2.0																														
授業のテーマ	ファンタジー作品における「魔法」の比較文化論																																			
授業の概要	「ファンタジー」とは、「幻想的なもの」が登場する物語のことです。この授業では、「魔法」をテーマに、「ファンタジー」ジャンルの映像作品を視聴し、その文化的背景について考えます。「ファンタジー」とはいったいどういうものなのか、ファンタジー作品の原作や、ファンタジーが誕生した地域と時代について勉強します。みなさんがよく知っているファンタジー作品の特徴を文化的な観点から学んでいきましょう。（授業計画の視聴予定作品は、授業の進度によって、内容が変更になることがあります。）																																			
到達目標	世界のさまざまな地域のファンタジー作品をとりあげ、その「ファンタジー」が生まれた社会的な背景や文化的背景について学びます。それらのジャンルについて正確な知識を身に付けることができます。「ファンタジー」の文化的な意義について、それぞれが論じることができるようになって下さい。																																			
授業計画	<table border="0"> <tr><td>第1回</td><td>主旨説明</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>「ファンタジー」とは何か。『グリム童話集』における魔法</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>魔法使いと魔女①—『魔女の宅急便』</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>魔法使いと魔女②—魔女と魔法使いの定義</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>魔法使いと魔女③—『ハリー・ポッター』</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>魔法使いと魔女④—『トリスタンとイゾルデ』</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>魔法使いと魔女⑤—魔女狩りの歴史</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>魔法使いと魔女⑥—日本における魔術の歴史と文化</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>魔法使いと魔女⑦—ヨーロッパにおける魔術の歴史と文化</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>魔法の世界①—『アナと雪の女王』</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>魔法の世界②—『美女と野獣』</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>魔法の世界③—『ナルニア国物語』</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>魔法の世界④—人間の世界と魔法の世界の距離</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>まとめ</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>テストと質疑応答</td></tr> </table>						第1回	主旨説明	第2回	「ファンタジー」とは何か。『グリム童話集』における魔法	第3回	魔法使いと魔女①—『魔女の宅急便』	第4回	魔法使いと魔女②—魔女と魔法使いの定義	第5回	魔法使いと魔女③—『ハリー・ポッター』	第6回	魔法使いと魔女④—『トリスタンとイゾルデ』	第7回	魔法使いと魔女⑤—魔女狩りの歴史	第8回	魔法使いと魔女⑥—日本における魔術の歴史と文化	第9回	魔法使いと魔女⑦—ヨーロッパにおける魔術の歴史と文化	第10回	魔法の世界①—『アナと雪の女王』	第11回	魔法の世界②—『美女と野獣』	第12回	魔法の世界③—『ナルニア国物語』	第13回	魔法の世界④—人間の世界と魔法の世界の距離	第14回	まとめ	第15回	テストと質疑応答
第1回	主旨説明																																			
第2回	「ファンタジー」とは何か。『グリム童話集』における魔法																																			
第3回	魔法使いと魔女①—『魔女の宅急便』																																			
第4回	魔法使いと魔女②—魔女と魔法使いの定義																																			
第5回	魔法使いと魔女③—『ハリー・ポッター』																																			
第6回	魔法使いと魔女④—『トリスタンとイゾルデ』																																			
第7回	魔法使いと魔女⑤—魔女狩りの歴史																																			
第8回	魔法使いと魔女⑥—日本における魔術の歴史と文化																																			
第9回	魔法使いと魔女⑦—ヨーロッパにおける魔術の歴史と文化																																			
第10回	魔法の世界①—『アナと雪の女王』																																			
第11回	魔法の世界②—『美女と野獣』																																			
第12回	魔法の世界③—『ナルニア国物語』																																			
第13回	魔法の世界④—人間の世界と魔法の世界の距離																																			
第14回	まとめ																																			
第15回	テストと質疑応答																																			
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし。																																			
授業方法	講義。																																			
評価基準と評価方法	テスト 60% 平常点 40%																																			
教科書	なし（プリントを配布します）。																																			
参考書	特になし。																																			

科目区分	総合文芸学科専門教育科目					
科目名	比較文化IVA					
担当教員	光田 和伸					
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	イサベラ・バードの『日本奥地紀行』を読んで、近代初頭の日本について考えます。					
授業の概要	イサベラ・バード（1831－1904）は『日本奥地紀行』（1880）で、初めて訪れた東北の農村について女性らしい細やかな筆致で、明治維新後10年の日本の田園の風景を生き生きと描いている。現代日本と変わらないところ、変わったところを考えてゆきます。					
到達目標	アジアにおける日本という視点が開かれるように努める。					
授業計画	1 イサベラ・バードという女性 2 初めて見る日本 3 旅立ち 北関東の風と光 4 日光 1 5 日光 2 6 農村 その美しさと貧しさと 7 子供たちの元気さ 病気とその原因 8 会津から新潟へ 1 9 会津から新潟へ 2 10 地上の楽園 置賜盆地 11 山形から新庄へ 12 秋田 花嫁行列 13 七夕祭 婦人の化粧 14 日本の葬礼 15 日本の見納め まとめ					
授業外における学習（準備学習の内容）	ある程度の予習が望ましい					
授業方法	講読形式で行います					
評価基準と評価方法	レポート70%、授業への参加を含む平常点30%で評価します。					
教科書	プリントを配布します					
参考書						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目					
科目名	比較文化IVB					
担当教員	光田 和伸					
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	イサベラ・バードの『朝鮮奥地紀行』を読み、近代初頭の朝鮮について考えます。					
授業の概要	イサベラ・バードは1894年から97年にかけて4度朝鮮を旅行しました。最初の旅は日清戦争の開始直前にあたっており、激しく変わってゆく朝鮮の姿を克明にとらえています。日本の介入が強まる様子についても言及されています。					
到達目標	アジアにおける朝鮮という視点が開かれるように努めます。					
授業計画	1 イサベラ・バードと朝鮮 2 朝鮮の第一印象 3 ソウル 街区 4 ソウル 住民 5 漢江 6 自然の美しさ 7 結婚式について 8 道路と宿屋 9 強まる「日本の影」 1 10 強まる「日本の影」 2 11 朝鮮の葬礼 12 女性の地位 13 朝鮮への最後の言葉 14 朝鮮と日本 15 まとめ					
授業外における学習（準備学習の内容）	ある程度の予習が望ましい					
授業方法	講読形式で行います					
評価基準と評価方法	レポート70%、授業への参加を含む平常点30%で評価します。					
教科書	プリントを配布します					
参考書						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目					
科目名	比較文化VA					
担当教員	西川 純司					
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	広告活動の理解					
授業の概要	広告活動についての基本的な知識を習得することを目指します。私たちはふつう広告を受け取る側にいて、それがどのようにして制作されているのかを知る機会がほとんどありません。しかし、広告が私たちに届けられるまでには多くの人や組織が関わり、多大な時間とお金がかけられています。本講義では、こうした広告活動を理解するために必要な、広告の定義や分類、広告計画のインプットからアウトプットの過程、さらには広告関連の法規や規制などの基礎的な知識を学びます。実際にテレビCMや雑誌広告、ネット広告などを見ながら解説していきたいと思います。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・広告の送り手（広告主・広告会社）がどのような流れで広告を制作しているのか、その実務的なプロセスについて体系的な知識を習得することができます。 ・実際の広告物を専門用語を使って分析し、体系的に説明できるようになります。 ・グループワークを通じて、自分で考え、発言し、議論する力が鍛えられます。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 広告とは何か 3 マーケティング計画と広告 4 広告主と広告会社の組織構造 5 広告計画の構造と調査 6 広告戦略の立案 7 広告費 8 広告表現の計画 9 広告媒体の計画 10 ブランド・コミュニケーション 11 広告関連の法規と規制 12 インターネット広告 13 レポート検討会 14 レポート発表会 15 まとめ 					
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の前後に参考書を読んでおくと理解が深まります。 日常的に広告を意識するようにしておくと、レポート作成に役立ちます。					
授業方法	講義を中心としますが、テレビCMなどの映像を観たり、簡単なグループワークをする機会も多く設けます。					
評価基準と評価方法	レポート 70%、平常点（授業での発言や貢献度）30%、で評価します。					
教科書	毎回プリントを配布します。					
参考書	岸志津江・田中洋・嶋村和恵、『現代広告論〔新版〕』、有斐閣					

科目区分	総合文芸学科専門教育科目					
科目名	比較文化VB					
担当教員	西川 純司					
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	広報・広告コミュニケーション					
授業の概要	本講義では、広報・広告がコミュニケーションのひとつのかたちであることを理解したうえで、広報（広報）を制作する体験をしてもらいます。まず、広報の基本を確認していきます。その後、映画鑑賞をはさんで、広報・広告が「なにを」「どのように」伝えるものなのかを、実際の広告や広報を分析することで、学びます。これらを踏まえたうえで、最後に、簡単な広報（広報）をつくることに挑戦してもらいます。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・広報・PRの基本的な知識が身につきます。 ・簡単な広告をつくることを通じて、情報を取捨選択し、まとめ、自分のアイデアを発信するための力が鍛えられます。 					
授業計画	1 イントロダクション 2 広報・PRの基本 3 企業経営と広報 4 行政・団体と広報 5 映画鑑賞『トゥルーマン・ショー』 6 映画鑑賞『トゥルーマン・ショー』 7 ディスカッション 8 広告を知る（1）：伝え方を学ぶ 9 広告を知る（2）：広告のコンセプトをつかむ 10 広告を知る（3）：広告の表現方法を学ぶ 11 広告をつくる（1）：広告のコンセプトを決める 12 広告をつくる（2）：広告の表現方法を決める 13 広告をつくる（3）：広告を完成させる 14 制作課題発表会 15 まとめ					
授業外における学習（準備学習の内容）	簡単な宿題を出すことがあるので、その時はしっかりと取り組んでほしいと思います。 日常的に広告を意識するようにしておくと、制作課題に役立ちます。					
授業方法	講義を中心としますが、テレビCMや映画などの映像を観たり、簡単なグループワークをする機会も多く設けます。また、簡単な広告制作も行います。					
評価基準と評価方法	制作課題 70%、平常点（授業での発言や貢献度）30%、で評価します。					
教科書	毎回プリントを配布します。					
参考書	日本パブリックリレーションズ協会編、『改訂版 広報・PR概論』、同友館					

科目区分	総合文芸学科専門教育科目					
科目名	美術入門B					
担当教員	上久保 真理					
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	日本の美術の歴史や技術の基礎的な知識に触れる。					
授業の概要	マンガやアニメなど、日本の美術が海外で人気だ。でも、わたしたちはそのルーツについて意外に知らないことが多い。この授業では日本美術の歴史や技法の基礎的知識の一端に触れることを目指す。長い歴史や文化の中で、人々が美術にどのような思いを託してきたのかを感じとろう。					
到達目標	日本の美術作品を通して、その歴史や文化、技法について考え、社会的、思想的背景を感じとろうとする姿勢を養う。					
授業計画	第1回 絵巻の世界ー物語を動かすー 第2回 キャラクターを作るー記号化するー(於コンピュータ室) 第3回 アニメーションを作る1ー描くー(於コンピュータ室) 第4回 アニメーションを作る2ー動かすー(於コンピュータ室) 第5回 日本の写実 第6回 浮世絵の世界ー簡略化と平面性ー 第7回 浮世絵を作る1ー下絵ー 第8回 浮世絵を作る2ー版を彫るー 第9回 浮世絵を作る3ー版を彩るー 第10回 浮世絵を作る4ー版を摺るー 第11回 西洋と日本 第12回 マンガの手法 第13回 日本の現代美術 第14回 自由制作1 第15回 自由制作2					
授業外における学習（準備学習の内容）	各回のテーマや制作内容について、各自が前もって調べてみること。 また授業で興味を持ったことがらについてさらに掘り下げて調べてみること。 授業内で取り上げる時代や技法などについての宿題レポートや発表準備。					
授業方法	講義と演習を織り交ぜ、ワークショップ形式も取り入れて授業を進める。 スライド、DVDなどの使用、希望により学外演習なども含む。 個人もしくはグループ単位での発表やコンピュータ室での作業もあり。					
評価基準と評価方法	平常点（毎回のコメントを含む）30%、提出物や発表40%、期末レポート30%の総合による。					
教科書	適宜プリントを配布する。					
参考書	授業中に隨時紹介する。					

科目区分	総合文芸学科専門教育科目					
科目名	文芸講読IA／文芸講読A					
担当教員	宗像 衣子					
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	文芸の味わい					
授業の概要	<p>文芸諸ジャンルの交流を味わいながら、文芸が文化の全体において考察されるおもしろさを実感してもらいたい。</p> <p>文学と芸術にまたがる身近なテーマをもった文章を、思想・歴史・宗教・社会・科学といった文化を浮き彫りにするものとして学び、文芸が幅広く関係し合う様子を確認する。</p> <p>ヨーロッパ、主にフランスの近現代、印象派以降の美術（たとえばゴッホ・モネ・ドガ・ゴーギャン・ピカソ・マチスなど）と 文学（詩人・作家・演劇家・映画人・批評家たち）に関わるテキストを読みながら （そのプロセスで音楽性・音楽家にも触れることになる）（また関係して、日本の作家・作品についても学ぶ） （テキスト形態は論説評論文だけでなく、詩や小説、隨筆・手紙・映像等にまたがる）、 様々な「物の見方・感じ方」に接して、文芸・文化の多様性に親しんで、 着実に読解力と広い視野を手に入れてほしい。</p>					
到達目標	<p>文字を読むだけでなく、美術・映像を見たり音楽を聞いたり、という総合文芸学科 ならではの学び方・楽しみ方で全体的な手ごたえを得ましょう。</p> <p>同時に、皆さんの身近な文芸・文化との色々な関わりに出会うことができます。</p>					
授業計画	<p>以下、授業の性質上、受講生の学習状況・希望等によって修正・変更されることがある。</p> <p>1 オリエンテーション 2 ヨーロッパ近現代の芸術家達 3 印象派と文学 4 印象派画家と文学者 5 印象派以降～現代美術と日本の芸術 6 印象派以降～現代美術と日本の文化 7 その他関連資料1（文芸） 8 その他関連資料2（文化） 9 ヨーロッパと日本の芸術家達 10 日本の文芸 11 日本の芸術 12 その他関連研究1（身辺の文芸） 13 その他関連研究2（身辺の文化） 14 まとめとレポート 15 反省・展開</p>					
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習					
授業方法	演習					
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%					
教科書	授業中に関連資料や参考書を配付・紹介する。					
参考書						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目					
科目名	文芸講読IB／文芸講読B					
担当教員	宗像 衣子					
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	文芸の味わい					
授業の概要	<p>文芸諸ジャンルの交流を味わいながら、文芸が文化の全体において考察されるおもしろさを実感してもらいたい。</p> <p>文学と芸術にまたがる身近なテーマをもった文章を、思想・歴史・宗教・社会・科学といった文化を浮き彫りにするものとして学び、文芸が幅広く関係し合う様子を確認する。</p> <p>ヨーロッパ、主にフランスの近現代、印象派以降の美術（画家たち、たとえばゴッホ・モネ・ドガ・ゴーギャン・ピカソ・マチスなど）と</p> <p>文学（詩人・作家・演劇家・映画人・批評家たち）に関わるテキストを読みながら（そのプロセスで音楽性・音楽家にも触れることになる）（また関係して、日本の作家・作品についても学ぶ）（テキスト形態は論説評論文だけでなく、詩や小説・随筆・手紙・映像等にまたがる）、</p> <p>様々な「物の見方・感じ方」に接して、文芸・文化の多様性に親しんで、着実に読解力と広い視野を手に入れてほしい。</p>					
到達目標	<p>文字を読むだけでなく、美術・映像を見たり音楽を聞いたり、という総合文芸学科ならではの学び方・楽しみ方で全体的な手ごたえを得ましょう。</p> <p>同時に、皆さんの身近な文芸・文化との色々な関わりに出会うことができます。</p>					
授業計画	<p>以下は、常にヨーロッパの芸術・文化、美術・音楽・文学との関係において学びます。出席者の様子・意向に応じて下記内容が変更される場合があります。</p> <p>1回 全員で授業出発点の合意・話し合い 2回 文芸講読の価値と目標 3回 日本の画家（東山魁夷等）テキスト1（生涯） 4回 同 テキスト2（初期） 5回 同 テキスト3（中期） 6回 同 テキスト4（後期） 7回 同 テキスト5（最晩年） 8回 全員討議 9回 希望と状況により学外見学 10回 アンソロジー1（西洋・絵と言葉） 11回 同テキスト2（東洋・絵と言葉） 12回 同テキスト3（東西文化） 13回 討議・討論 14回 復習とレポート 15回 反省とまとめ</p>					
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習					
授業方法	演習					
評価基準と評価方法	平常点75%、レポート等25%					
教科書	授業中に関連資料や参考書を配付・紹介する。					
参考書						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目					
科目名	文芸講読IIA／文芸講読C					
担当教員	山田 道夫					
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	『シラノ・ド・ベルジュラック』を読む					
授業の概要	19世紀末フランスの耽美主義と古典的教養を融合させて、文学史上最大の人気者「鼻のシラノ」を生み出した、ロマンチック・ラブの最高傑作『シラノ・ド・ベルジュラック』を講読する。筋の組み立て、人物造型、思想、時代背景、古典の影響など、多様な観点から批判的に読解する。					
到達目標	①テクストの漢字や語彙を学んで、文意を正しく把握し、上手に音読・朗読できるようになる。 ②テクストをさまざまな視点から読み解いて、自分なりの筋の通った分析や批評の文章が書けるようになる。					
授業計画	第1回 イントロダクション（授業の受け方、出席要件、評価方法、テクスト概説） 第2回 第一幕 第3回 第一幕、映画ビデオ 第4回 第二幕、漢字読み取りテスト 第5回 第二幕、映画ビデオ 第6回 第三幕、漢字読み取りテスト 第7回 第三幕 映画ビデオ 第8回 第四幕 漢字読み取りテスト 第9回 第四幕 映画ビデオ 第10回 第五幕 漢字読み取りテスト 第11回 第五幕 映画ビデオ 第12回 レポートの課題と書き方、漢字読み取りテスト 第13回 『シラノ』のロマンチック・ラブについて 第14回 シラノとソクラテス 第15回 まとめと展望、期末レポート提出					
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業で講読するテクストの範囲を授業までに辞書等を調べながら読んで、疑問点を整理してくる必要がある。					
授業方法	講読、教員による質問、解説、問題点の指摘などを交えながら一緒に読んでゆく。1幕ごとに漢字の読み取りテストをし、映画『シラノ・ド・ベルジュラック』の対応箇所を観る。					
評価基準と評価方法	授業への参加度、準備学習、音読・朗読、漢字テストの点数等による到達目標①の評価 50% 期末レポートによる到達目標②の評価 50% 。					
教科書	『シラノ・ド・ベルジュラック』（岩波文庫） エドモン・ロスタン著、鈴木信太郎・辰野隆訳					
参考書	『シラノ・ド・ベルジュラック』（光文社古典新訳文庫） ロスタン著、渡辺守章訳					

参考書	
-----	--

参考書	
-----	--

科目区分	総合文芸学科専門教育科目
科目名	文芸特殊講義ⅡⅠA／（日本ジャーナリズム史）
担当教員	西川 純司
学期	前期／1st semester 曜日・時限 木曜2 配当学年 3 単位数 2.0
授業のテーマ	歴史からみる日本のジャーナリズムとメディア
授業の概要	たとえプロのジャーナリストにはならなくても、インターネットを通じて誰もが報道・評論活動を行ないうる現在、ジャーナリズムの原理や歴史を知っておくことは重要です。この授業では、わたしたちが生活していくなかで最低限知っておくべき日本のジャーナリズムの歴史について概略的に学びます。また、現在の日本のジャーナリズムにみられる特質や問題点が、どのようにして歴史的にできあがってきたのかをトピックごとに考えます。その後、新聞・出版・テレビ・インターネットの各メディアをとりあげ、それらが報道や評論活動をいかに規定してきたのかを検討します。歴史を学ぶことは、単に過去を知るだけではなく、現在や未来を考えるヒントを探ることに他なりません。
到達目標	・日本のジャーナリズムの歴史について最低限知っておくべき知識が得られます。 ・歴史を知ることで、現在、そしてこれからのジャーナリズムのあり方を考える手がかりがつかめるようになります。
授業計画	1 イントロダクション 2 なぜジャーナリズムを学ぶのか? 3 ジャーナリズムとは何か 4 ジャーナリズムとメディア 5 日本のジャーナリズム（1）：言論の自由 6 日本のジャーナリズム（2）：客観報道 7 日本のジャーナリズム（3）：人権と報道 8 日本のジャーナリズム（4）：コマーシャリズム 9 日本のジャーナリズム（5）：記者クラブ 10 メディア史（1）：新聞 11 メディア史（2）：出版 12 メディア史（3）：テレビ 13 メディア史（4）：インターネット 14 レポート検討会 15 まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の前後に参考書を読んでおくと理解が深まります。 また、日常的にニュースや新聞を意識して見たうえで授業に臨んでほしいと思います。
授業方法	講義を中心としますが、簡単なディスカッションやグループワークをする機会も多く設けます。
評価基準と評価方法	レポート70%、平常点（授業での発言や貢献度）30%、で評価します。
教科書	毎回プリントを配布します。
参考書	田村紀雄・林利隆・大井眞二編、『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』、世界思想社 原寿雄、『ジャーナリズムの思想』、岩波新書

科目区分	総合文芸学科専門教育科目					
科目名	文芸との触れ合いIA					
担当教員	澤西 祐典					
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	文芸作品の創作					
授業の概要	作品を実際に執筆することにより、創作文芸における表現力とは何かを学習します。受講生は与えられた課題に沿って作品を執筆し、授業ではその作品を鑑賞し合い、作品について議論します。					
到達目標	文芸作品を創作する上で心構えと基本的な技術を身につけます。					
授業計画	第一回 書くことに対する心構え 第二回 作品鑑賞（1）夏目漱石「夢十夜」を読む 第三回 作品鑑賞（2）課題①「夢」 - 1 第四回 作品鑑賞（3）課題①「夢」 - 2 第五回 作品の構造・文体について考える 第六回 作品鑑賞（4）課題②「一人称」 - 1 第七回 作品鑑賞（5）課題②「一人称」 - 2 第八回 作品鑑賞（6）課題③「第三者視点」 - 1 第九回 作品鑑賞（7）課題③「第三者視点」 - 2 第十回 作品鑑賞（8）課題④「会話・話し言葉」 - 1 第十一回 作品鑑賞（9）課題④「会話・話し言葉」 - 2 第十二回 作品鑑賞（10）課題⑤「人間模様」 - 1 第十三回 作品鑑賞（11）課題⑤「人間模様」 - 2 第十四回 作品鑑賞（12）課題⑤「人間模様」 - 3 第十五回 まとめと質疑応答					
授業外における学習（準備学習の内容）	課題に従って、千字～二千字程度の作品を制作し、期限内に提出して下さい。					
授業方法	講義および受講生の作品の鑑賞					
評価基準と評価方法	平常点50%、課題点50%					
教科書	夏目漱石『夢十夜』（新潮文庫）ISBN978-4101010182					
参考書	梶井基次郎『梶井基次郎（ちくま日本文学28）』（ちくま文庫）ISBN978-4480425287					

科目区分	総合文芸学科専門教育科目					
科目名	文芸との触れ合いIII A					
担当教員	稻垣 萌子					
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	色や形を捉え直すことで、自分自身による新しい色や形を作り出す					
授業の概要	日常生活の中の色や形を見つめながら、色彩や形態、構成の基礎を学び、実践する。					
到達目標	制作を通して、日常生活の中にある美しい色や形に対して鋭敏に反応し、自分自身のモノの見方に気づくことができる。					
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 色の収集 第3回 色の収集 第4回 色の響き合い 第5回 究極のキューブ 第6回 究極のキューブ 第7回 究極のキューブ 第8回 形の収集 第9回 形の収集 第10回 オリジナルの色紙を作る 第12回 構成について 第13回 形と色のコラージュ 第14回 形と色のコラージュ 第15回 合評・まとめ					
授業外における学習（準備学習の内容）	次回の講義で必要な材料を集めること。また、授業で興味を持った事や新たに気づいた事について、記述しておこうこと。					
授業方法	講義と実技					
評価基準と評価方法	平常点30%、提出物40%、レポート30%					
教科書						
参考書						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目					
科目名	文芸との触れ合いIIIB					
担当教員	徳永 隆之					
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数
授業のテーマ	美術としての写真					
授業の概要	写真を使った作品制作に取り組み、制作者の視点から美術作品を考察することに重点を置きます。授業ではピンホールカメラを製作した後に撮影をおこない、写真の原理を理解します。その後、デジタルカメラを使用して撮影技術を学びます。また、普段触る機会が少ない大型カメラでの撮影も体験し、写真の原理に対する理解を深めます。実習と平行して、写真作家の作品集鑑賞をおこない、作品に込められたメッセージを読み取る練習をします。					
到達目標	1. カメラの操作方法を学ぶ。 2. 制作する体験を通して、美術作品をより深く理解する。					
授業計画	第 1回 授業ガイダンス 第 2回 ピンホールカメラ製作 第 3回 撮影実習① (ピンホールカメラを使用して撮影をおこなう) 第 4回 撮影の基礎知識について学ぶ 第 5回 撮影実習② (人物撮影) 第 6回 画像調整ソフトの使用説明 第 7回 blogの作成及びweb上へ写真の掲載 第 8回 大型カメラ及びデジタル一眼レフカメラの使用説明 第 9回 撮影実習③ (大型カメラを使用して撮影をおこなう) 第10回 撮影実習④ (大型カメラを使用して撮影をおこなう) 第11回 撮影実習⑤ (デジタル一眼レフを使用して撮影をおこなう) 第12回 作品集鑑賞① 第13回 作品集鑑賞② 第14回 撮影実習⑥ (コンストラクティッドフォトについて考える) 第15回 画像編集・レポート及び作品提出					
授業外における学習(準備学習の内容)	授業外で各自被写体を探し撮影します。また、写真提出はblogでおこないます。					
授業方法	実習及び演習					
評価基準と評価方法	「課題 40%、平常点 60%」欠席した場合は大幅に減点しますので注意してください。					
教科書	必用な際にプリントを配布します。					
参考書						

評価基準と評価方法	平常点（60%）、レポート（10%）および発表（30%）を総合的に評価。
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては随時授業中に紹介していく。
参考書	

参考書	
-----	--

科目区分	総合文芸学科専門教育科目					
科目名	文芸との触れ合いVA					
担当教員	緋田 芳江					
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	声楽を学ぶ					
授業の概要	クラシックの声楽曲から代表的な作品を選び、実際に歌ってみることを通して、詩と音楽の結びつきや、作曲家、詩人、時代背景などへの理解を深めます。					
到達目標	声楽作品の概要を学ぶことができます。詩歌の理解を深めることができます。外国語の歌詞や楽譜の読み方、発声など声楽の基礎を身につけることができるようになります。					
授業計画	第1回 発声の基礎 第2回 ラテン語で歌う宗教曲 1 第3回 ラテン語で歌う宗教曲 2 第4回 イタリア語で歌う歌曲 1 第5回 イタリア語で歌う歌曲 2 第6回 イタリア語で歌うオペラアリア 1 第7回 イタリア語で歌うオペラアリア 2 第8回 まとめと試験 第9回 ドイツ語で歌う歌曲 1 第10回 ドイツ語で歌う歌曲 2 第11回 ドイツ語で歌う歌曲 3 第12回 重唱 1 第13回 重唱 2 第14回 重唱 3 第15回 まとめと試験					
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：次回に取り上げる作品の歌詞調べや譜読み等。毎回の授業後に課題を具体的に示します。 授業後学習：学んだ作品を繰り返し歌い、同じ作曲家・詩人の他の作品なども興味を持って調べてみてください。					
授業方法	講義と試演。					
評価基準と評価方法	試験(2回)40%、課題30%、平常点30% 欠席した場合は減点。					
教科書						
参考書						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目					
科目名	文芸との触れ合いVB					
担当教員	岡部 政美					
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数 2.0
授業のテーマ	音・音楽の考察					
授業の概要	私たちの日常は、様々な音や音楽に溢れています。そういった身近な音環境・題材に焦点を当てつつ、サウンドスケープの概念をはじめ、近年注目されている音楽療法の紹介もまじえ、様々な視点から個人と音・音楽との触れ合い、意味について考察します。授業形式は、映像や様々な音・音楽のCDを使用しながら講義するとともに、実際に生で身近な音や音楽を聴いて、講義の教材にし、ディスカッションを行う機会を設定します。					
到達目標	1. 幅広い視点から「音楽」を捉えることができるようになる。 2. サウンドスケープの概念について分かるようになる。 3. 音楽が私たちの生活にどのように使用され、影響を与え・受けているかについての気づきを得る。					
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 音の生態学・音楽と私 第3回 サウンドエデュケーション（音に関わる課題）1 第4回 サウンドエデュケーション（音に関わる課題）2 第5回 様々な音・音楽1 第6回 様々な音・音楽2 第7回 音と映像・イメージ1 第8回 音と映像・イメージ2 第9回 音と映像・イメージ3 第10回 音楽とイベント 第11回 静けさについて（課題の発表） 第12回 俳句の世界 第13回 音楽療法について1 第14回 音楽療法について2 第15回 試験と質疑応答					
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習・事前学習：授業の最後に、次回のテーマについての説明を行います。教科書の該当する箇所を指示しますので、事前に予習を行ってください。また授業内容によっては、授業の準備として簡単な課題の指示を行うことがあります。 授業後学習：授業中に示された視聴覚教材と教科書に示された例についての関係について振り返り要点をまとめてください。後日、学習状況の確認のために、課題を出します。質問があればメールで質問してください。					
授業方法	講義					
評価基準と評価方法	学習態度及び提出物 60%（随時課題、レポート1回）40%（試験1回）					
教科書	『音の生態学－音と人間のかかわり』若宮真一郎著、コロナ社、ISBN-4-339-07694-5					
参考書						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目					
科目名	文芸との触れ合いVIB					
担当教員	西川 純司					
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数
授業のテーマ	評論に触れる					
授業の概要	評論・批評という営みについて学びます。さまざまなメディアでなされた評論や批評をじっくりと読み解きながら、その内容や伝え方についての知識を得ます。その際、ジャーナリストや批評家による新聞記事や批評文などの文章だけでなく、社会調査の結果や映像資料も素材として使います。さらに、学んだことを活かして、簡単な評論文を作成し、発表する機会も設けます。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・評論文の内容や伝え方に関する基礎的な知識を得ることができます。 ・簡単な評論文が書けるようになります。 					
授業計画	1 イントロダクション 2 評論・批評とはなにか 3 新聞記事（1） 4 新聞記事（2） 5 雑誌記事（1） 6 雑誌記事（2） 7 社会調査（1） 8 社会調査（2） 9 テレビ番組（1） 10 テレビ番組（2） 11 映画（1） 12 映画（2） 13 評論文の発表（1） 14 評論文の発表（2） 15 評論文の総評とまとめ					
授業外における学習（準備学習の内容）	日常的に新聞やニュース番組に接しておくと理解が深まります。					
授業方法	講義を中心とします。また、簡単な評論文を作成、発表してもらいます。					
評価基準と評価方法	発表40%、平常点（授業での発言や参加度）60%、で評価します。					
教科書	毎回プリントを配布します。					
参考書						

科目区分	総合文芸学科専門教育科目					
科目名	文章表現A					
担当教員	宗像 衣子					
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	楽しく書こう					
授業の概要	文章を書くとは自己表現であり、自己創造の意味をもつ。書くことによって自分を発見し、新たな自分を創ってゆくことについて、実践的に学ぶ。添削指導で、実力アップをはかる。 日本語の基本的知識を習得するため、漢字検定にむけて、漢字の指導も行なう。					
到達目標	文章表現を実際に試み、文章表現の様々な楽しみを味わいながら、文章表現法を身につけることができます。					
授業計画	以下、使用テキストに沿って進めるが、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。 1 オリエンテーション 2 資料収集調査指導・図書館案内 3 書くこと 4 文例 1他 5 文例 2他 6 文例 3他 7 作文他 8 水の入ったコップ 9 文例 1他 10 文例 2他 11 文例 3他 12 文例 4他 13 作文他 14 まとめとテスト 15 反省・展開					
授業外における学習（準備学習の内容）	テキスト予習 作文作成					
授業方法	講義と演習					
評価基準と評価方法	平常点 75%、レポート等 25%					
教科書	下記の指定教科書以外に、授業中に関連テキスト・資料を配付する場合がある。 文章表現 四〇〇字からのレッスン（ちくま学芸文庫） 梅田卓夫著（筑摩書房） 漢検試験問題集 2級（旺文社）					
参考書	言語学から記号論へ（講座記号論1） 川本茂雄著（勁草書房）					

科目区分	総合文芸学科専門教育科目					
科目名	文章表現B					
担当教員	宗像 衣子					
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	楽しく書こう					
授業の概要	文章を書くとは自己表現であり、自己創造の意味をもつ。書くことによって自分を発見し、新たな自分を創ってゆくことについて、実践的に学ぶ。添削指導で、実力アップをはかる。 日本語の基本的知識を習得するため、漢字検定にむけて、漢字の指導も行なう。					
到達目標	文章表現を実際に試み、文章表現の様々な楽しみを味わいながら、文章表現法を身につけることができます。					
授業計画	以下、使用テキストに沿って進めるが、授業の性質上、受講生の実践状況等によって修正されることがある。 1 6 ガイダンス 1 7 学園の風景 1 8 文例 1他 1 9 文例 2他 2 0 文例 3他 2 1 文例 4他 2 2 作文他 2 3 もうひとりの自分 2 4 文例 1他 2 5 文例 2他 2 6 文例 3他 2 7 文例 4他 2 8 作文他 2 9 まとめとテスト 3 0 総合					
授業外における学習（準備学習の内容）	テキスト予習 作文作成					
授業方法	講義と演習					
評価基準と評価方法	平常点 75%、レポート等 25%					
教科書	下記の指定教科書以外に、授業中に関連テキスト・資料を配付する場合がある。 文章表現 四〇〇字からのレッスン（ちくま学芸文庫） 梅田卓夫著（筑摩書房） 漢検試験問題集 2級 (旺文社)					
参考書	言語学から記号論へ(講座記号論1) 川本茂雄著（勁草書房）					

科目区分	総合文芸学科専門教育科目					
科目名	マスコミ文章編集					
担当教員	佐藤 千晴					
学期	通年／Full Year	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数 4.0
授業のテーマ	パソコンを使った新聞制作を通して表現する力、調べる力、情報を判断する力を育てる					
授業の概要	<p>新聞には文章を通じて事実を伝える知恵が詰まっています。「マスコミ文章編集」はその基礎を講義とデスクトップパブリッシング(DTP)ソフト「パーソナル編集長」を使った実習で具体的に学ぶ授業です。</p> <p>新聞、インターネットメディアなどを読み解く力、活用する力も育てます。</p> <p>社会人に必須のコミュニケーション能力を高めるために授業へのアクティブな参加を重視します。</p>					
到達目標	<p>伝えたいことを新聞という形にデザインして表現する。</p> <p>新聞などニュースメディアの情報を集め、読み解けるようになる。</p>					
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 新聞・メディアとの付き合い方</p> <p>第2回 実習「まわしよみ新聞」をつくる(1)</p> <p>第3回 実習「まわしよみ新聞」をつくる(2)</p> <p>第4回 新聞づくりの基礎(1) 新聞はこうして作られる</p> <p>第5回 新聞づくりの基礎(2) 取材をする・記事を書く</p> <p>第6回 新聞づくりの基礎(3) 紙面のデザイン・見出しの作り方</p> <p>第7回 演習・パソコンを使って新聞を作ってみよう</p> <p>第8回 演習・パソコンで素材を集める・加工する基礎～ペイントの使い方など</p> <p>第9回 演習・DTPソフト「パーソナル編集長」(1) テンプレートを使う</p> <p>第10回 演習・DTPソフト「パーソナル編集長」2見出しづくりとレイアウト</p> <p>第11回 演習・DTPソフト「パーソナル編集長」3写真や画像などを置く</p> <p>第12回 演習・DTPソフト「パーソナル編集長」4効果的に見せるテクニック</p> <p>第13回 演習・DTPソフト「パーソナル編集長」5仕上げ</p> <p>第14回 実習・PR紙をつくってみる(1)</p> <p>第15回 実習・PR紙をつくってみる(2)</p> <p>第16回 演習・新聞1面の模擬製作(1)</p> <p>第17回 演習・新聞1面の模擬製作(2)</p> <p>第18回 実習・工場見学新聞をつくる(1) ネット素材「THE MAKING」からテーマ選定</p> <p>第19回 実習・工場見学新聞をつくる(2) ネット素材「THE MAKING」を模擬取材、記事作成</p> <p>第20回 実習・工場見学新聞をつくる(3) ネット素材「THE MAKING」から新聞制作・・・★作品提出</p> <p>第21回 演習・新聞社会面の模擬制作(1)</p> <p>第22回 演習・新聞社会面の模擬制作(2)</p> <p>第23回 実習・自由なテーマで新聞をつくる(1)素材集め</p> <p>第24回 実習・自由なテーマで新聞をつくる(2)構成と見出し</p> <p>第25回 実習・自由なテーマで新聞をつくる(3)大組み・・・★作品提出</p> <p>第26回 仕上げ実習・自分史新聞(1)記事</p> <p>第27回 仕上げ実習・自分史新聞(2)構成</p> <p>第28回 仕上げ実習・自分史新聞(3)見出しどと箱組み</p> <p>第29回 仕上げ実習・自分史新聞(4)大組み・・・★作品提出</p> <p>第30回 まとめ</p>					
授業外における学習(準備学習の内容)	毎回、メディアをテーマに簡単な課題を出します。目安とする学習時間は30分ほどです。次回の授業でそれが発表、話し合います。					
授業方法	演習					
評価基準と評価方法	提出物(3回) 60% 授業中への参加度40%					
教科書	必要に応じ、プリントや教材を配布します。					

参考書	授業のトピックに関連する本を授業中に紹介します。
-----	--------------------------

科目区分	総合文芸学科専門教育科目					
科目名	メディア・広報入門B／メディア・広報入門II					
担当教員	西川 純司					
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数 2.0
授業のテーマ	メディアと自分史					
授業の概要	本講義では、自分史を作成しながら、私たちの考え方や関係性がメディア環境と深く結びついていることを理解してもらうことを目的としています。みなさんが生まれ成長してきた時代は、メディア環境が大きく変化した時期でもありました。わたしたちはどのようにしてテレビやインターネットなどのメディアを利用してきたのか、それは親や祖父母が経験してきたこととどのように違っているのでしょうか。これから時代のメディアを考えるためにも、過去および現在のメディアの利用実態をひも解いていきます。そうして、マクロな社会の流れとミクロな自分の生活を結びつける想像力を身につけることが、本講義のねらいです。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアの利用実態やその影響についての基本的な知識を習得できます。 ・自分史を作成していく過程で、情報の集め方やまとめ方、人に話を聞くやり方、さらには他の学生との間で意見を交換し議論する方法が身につきます。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 イントロダクション 2 日本人はメディアをどのように受け入れてきたか 3 メディアの利用実態の変化（1）：テレビ 4 メディアの利用実態の変化（2）：新聞 5 メディアの利用実態の変化（3）：書籍・雑誌 6 メディアの利用実態の変化（4）：インターネット 7 メディアの利用実態の変化（5）：電話 8 メディア環境の変化を考える（1）：メディアと心理 9 メディア環境の変化を考える（2）：メディアの「悪影響」 10 自分史をつくる（1）：情報を集める 11 自分史をつくる（2）：情報をまとめる 12 自分史をつくる（3）：タイムラインを完成させる 13 自分史をつくる（4）：将来を予想する 14 制作課題発表会 15 まとめ 					
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の前後に参考書を読んでおくと理解が深まります。また、自分のまわりにあるメディアについて、いつ、どこで、どのように利用しているのか意識しておいてもらいたいと思います。					
授業方法	講義を中心としますが、簡単なディスカッションやグループワークをする機会も多く設けます。また、簡単な制作課題にも取り組んでもらいます。					
評価基準と評価方法	制作課題70%、平常点（授業での発言や貢献度）30%、で評価します。					
教科書	毎回プリントを配布します。					
参考書	橋本良明、『メディアと日本人』、岩波新書					